

陶器製品設置時の壁補強（乾式工法）

分類	陶器品番	バックハンガー品番	ねじ品番	補強木による補強		C形チャンネルによる補強	
				補強木厚み例(mm)	補強木ねじ込み深さ(mm)	t=2.3mm	t=3.2mm
手洗器	L-15	SF-5E	—	48	39	○	○
	AWL-33	—	KF-33もしくはKF-7	24	15	—	—
	L-35(L-A35)	—	KF-33	24	15	—	—
	L-92	—	KF-1	24	24	—	—
	L-A74	SF-78E	—	24	15	○	○
	AWL-71U	SF-76E	—	24	12	○	○
	L-A101	SF-10E	—	24	24	○	○
洗面器	L-125	SF-10E	—	24	18	○	○
	L-132	SF-10E	—	24	24	○	○
	L-176U	SF-10E	—	24	24	○	○
	L-275	SF-10E	—	24	18	○	○
	L-365	SF-10E	—	24	15	○	○
	L-531(L-A531)	SF-10E	—	36	27	○	○
	L-A537	SF-47E	—	24	18	○	○
	L-543(L-A543)	SF-10E	—	36	30	○	○
	L-555(L-A555)	SF-10E	—	24	24	○	○
	L-A557L	SF-47E	—	24	24	○	○
	L-A558	SF-47E	—	24	24	○	○
	L-A951	SF-10E	—	24	15	○	○
	L-A955	SF-10E	—	24	15	○	○
L-C21	—	製品に同梱	24	18	○	○	
流し	S-2	SF-10E	—	24	18	○	○
	S-3	SF-10E	—	24	18	○	○
	S-5	SF-10E	—	24	18	○	○
	S-17	SF-10E	—	24	18	○	○
	S-18U	—	SF-18C	24	18	—	—
	S-21S	SF-10E	—	24	18	○	○
	S-105	—	KF-1	24	18	○	○
	S-107	—	KF-1	24	18	○	○
	S-200	SF-10E	—	24	15	○	○
	S-202A	SF-10E	—	24	15	○	○
	S-203U	—	UF-104C	24	18	—	—
	S-206R	SF-10E	—	24	15	○	○
	S-531	SF-10E	—	36	27	○	○
洗髪器	S-47	SF-47E	—	24	24	○	○
小便器	U-401R	UF-114E	—	12	12	/	
	U-406RU	SF-10E	—	12	12		
	U-411R	SF-10E	—	12	12		
	U-431R	UF-114E	—	12	12		
	U-A12AP	SF-10E	—	12	12		
	U-A51	SF-10E	—	12	12		
タンク	DT-870XU	—	KF-35WY	12	12	/	
	DT-871XU	—	KF-35WY	12	12		
	DT-520XZCH	—	KF-35WY	12	12		
	DT-570XZCH	—	KF-35WY	12	12		
大便器	C-P17P	—	—	36	30		

※上記の補強木厚みは一般的な市販の補強木(厚み12mm)を使用した場合の例です。

補強木の厚さは、補強木ねじ込み深さ以上の厚みを確保してください。(複数枚貼り合わせの合計厚みでも可)

※AWL-33、L-35、L-92は化粧ビスが取りつきませんのでドリルねじ施工は出来ません。

※補強木はJAS規格相当合板。C形チャンネルの補強部のサイズは100×50×21mmです。

※製品先端に1100Nで10分間の荷重がかかった際に、ねじの引抜荷重に耐えうる壁とC形チャンネル(呼びφ5、長さ50mm、材質ステンレスのドリルねじ使用)の下地補強です。(数値はJIS A5207に準ずる)壁自体の強度を確保するためのものではありません。

※ねじが十分にかかっていることを確認してください。

※補強が不十分な場合は、器具が脱落したり、がたついたりすることがあります。

※手洗器、洗面器の水栓カラン穴形状品番については省略しています。

※小便器品番については代表品番として詳細品番を省略しています。

※補強木及びC形チャンネルは建築躯体に堅牢に固定してください。

※C形チャンネルを使用する場合、スタッドはJIS65形以上をご使用ください。また、陶器設置部は300mm程度のスタッドの間隔としてください。

※乾式工法には軽量鉄骨を立てる工法などが含まれます。